

## 会 議 録

会議の名称	令和4年度第8回天草市総合政策審議会
開催日時	令和5月12日(木) 13:30~15:10
開催場所	天草市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、荒木委員、江良委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、西村委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和4年度第6回天草市総合政策審議会の会議録について (2) 令和4年度第7回天草市総合政策審議会の会議録について 4 議 題 (1) 第2次天草市行政経営改革大綱について 5 その他 6 閉 会
審 議 内 容	
<p>(1) 第2次天草市行政経営改革大綱について</p> <p>○事務局説明</p> <p>(会長) 行政経営改革大綱としては、全般的に改革することを挑戦することを明確にしてほしい。課題を設定し、割り切って数年間で取り組むことを明確にしてほしい。このことが改革であるので。そのため、現在記載されている現状維持や毎年実施などの説明はちょっと違う。たとえば、継続していくことが難しいのであればそのことが課題であって、そのためにどう挑戦するかが重要。アクションプランの表についてもフォーマットを再度検討してほしい。取り組み事項は改革する事項であって、そこにどんな課題があるのかを明確にしてほしい。そこからどんなことを実施するのか取り組む内容を記載し、この取り組みがどのように影響していくのかをアウトカムとして論理的に整理してほしい。こうすることで取り組む内容が見えやすくなるので。あと、指標名は明確にしてほしい。審議会ではその指標の達成を見ていくことになるので。</p> <p>(事務局) 課題を出すことでつながりが出てくると思われる。ご意見を参考に表について変更し、次回の審議会で提出する。</p> <p>(委員) 市民からの意見がどのように反映されているのかということが皆さんは知りたと思う。そのような視点も入れてほしい。</p> <p>(事務局) 検討させていただく。</p> <p>(委員) 今回の数値目標は令和7年度までとなるのか。</p> <p>(事務局) 今計画は、総合計画との関連から前期基本計画期間と同様の令和7年度となる。</p> <p>(委員) アクションプランには、すごく具体的に書かれている。実行すると効果があるため、まだまだ数値が伸びると思う。例えば、行政運営の目標値としては半分以上、デジタル技術の目標値となっている職員が感じている割合は7~8割が感じる</p>	

ことで行革が進んだということになると思う。そのくらいの数値目標でもいいのではないか。広報紙の在り方としては、移住希望者や誘致企業などにもぜひ読んでもらいたい。広報紙からのつながりを効果としてみるができないか。また、広報紙への有料広告を増やすことで財政面での収益や広報紙の価値向上にもつながっていくと思う。一つ質問で、民間事業所との連携をどう考えていただけるのか教えてほしい。

(事務局) 今回提示している行政経営改革大綱には第3次天草市総合計画の前期基本計画に掲げる成果指標を掲載している。アクションプランの数値は、ご意見も踏まえ再度検討する。有料広告については、一定の基準を設けて現在も掲載しており、営利目的などについては掲載が難しいところもある。民間事業者との連携は、現在は、公設公営から公設民営や協働などができないか検討を進めている。行政が全てを行うのではなく、今後民間の皆様の手を借りながらできないかなど来年度には洗い出しを行い、検討を進めていきたいと考えている。

(会長) アクションプランを検討する中で、「何を改善するのか。」「どこに課題があるのか。」を明確してもらいたい。また、指標は、成果が測れるもの、または検証ができるものを設定してもらいたい。

(委員) アクションプランの指標は、総合計画の指標にどのようにつながっていくのか。何をどうするのかなど基準を含め、ぜひ丁寧に説明してほしい。

(事務局) アクションプランの中で、何をどうすればいいのかなどを含め、再度整理し、提示する。

(会長) 内容について、ぜひ総点検し、何が課題なのか明確してもらいたい。

(委員) 事務事業の見直しについては、単に廃止や統廃合するのではなく、もう少し連携や他とのつなぐという部分を付け加えて効果を発揮するなどそのような視点も検討されていいのかもしれない。

(会長) 今のご意見のように、連携していくことで、相乗効果も期待できる。事業間や政策間も含めて事業を総点検することなども一つの方法かもしれない。

(委員) YouTube を見る人はそのことに興味がある人だと思う。インスタの場合は、誰でも気軽にそして簡単に見ることができるというところが利点。まずは、インスタに力を入れて、興味があったら YouTube を見に行くという流れを考えられてもいいのではないか。

(事務局) ご意見をいただいたとおり、市の公式 YouTube チャンネルでも内容において視聴回数が大きく違う。いただいたご意見を含め検討させていただきたい。現在、インスタは観光関係の掲載が中心となっている状況。

(委員) まずは天草の事に興味を持ってもらうということが大切だと思うので。

(委員) 行政と市民の結び付きを考えると LINE をもっと活用されてもいいのではないか。LINE はほとんどの市民がダウンロードされていると思うので。また、携帯電話はこれからスマホに移行もしていくので、LINE は重要なツールだと思う。

(事務局) 本市も公式 LINE を運営しており、来年度からは福祉分野での受付申請を入れていく予定。福岡市などは LINE の活用がかなり進んでいるが、天草市はまだ進んでいない状況。他の自治体の状況を含め、活用を検討していきたい。

(委員) 私の住んでいる目黒区も LINE が活用されている。おくやみの手続きや道路舗装の壊れているところを市へお知らせするためのツール、ゴミのことなど多くの分

野に取り入れられており、いろいろなことが簡単にできると実感している。

(事務局) 本市においては、来年度から LINE を活用した検診予約システムの導入を予定している。この検診については、これまで加入される保険の確認などが複雑なため対応が難しかったが、LINE では対話型の方法を取り入れるため予約システムが可能となった。

(委員) 女性職員の活躍推進において、管理職や監督職への昇任意欲を育てていくとなっているが、この表現からは現状女性職員にやる気がないように見えてしまう。天草市の場合、女性の働き方としては、男性管理職と同等の働き方を求められているのか。それとも、働く時間などの考慮や環境を整えてそこから管理職や監督職を目指す女性を求められていくのか。どうしても、まだ女性の場合は、晩御飯の準備などもあり、それまでに帰らないといけないなどどうしても時間の問題がある。しかし、男性の管理職の場合はしょうがない、当たり前となっていると思う。女性についての管理・監督職の具体的な働き方が見えないと手が挙がらないと思う。

(事務局) 今回、このことを目的とした理由としては、管理・監督職の前となる係長になりたいと思う女性職員が非常に低い状況にある。このため、まずは、係長になりたいと思える意識の醸成を図っていくところを考えている。

(委員) 管理職や監督職になると、どうしても夜の会議に参加するなどが条件となっていて、だからなりたいと思う人が少ないのではないかと。係長職などにはどういうことを求めているかなど働くイメージができないと分からないと思う。

(会長) 今のご意見のとおり、意欲があっても働く条件で手を挙げられないのかもしれない。

(委員) まだまだ男女が同じ条件でというのは難しいのかもしれない。状態で分けるといいのかもしれないが、非常に難しいと思う。もしかしたら、この部分をきちんと考え、腹をくくって説明し、天草市は女性に手厚くサポートを行っていくこと示すことでやさしさのまちにつながるかもしれない。難しいところだが。

(会長) たしかに、今までの意見を踏まえ、今はどこに課題があるかが見えていないのかもしれない。課題を出したところで考えると今後どんなことが必要なのかが見えてくるのかもしれない。

(委員) 以前、病院の職場に勤めていたが、病院では女性の管理職が多い。なぜかという、午後5時以降の会議はほぼなく、日中の会議がほとんど。役職、男女問わず5時以降など、勤務時間が終わるとすぐに帰れる仕組みとなっていた。

(会長) ぜひ、このところは検討してもらいたい。行革として、具体的に挑戦していかないと変わらないので。

(委員) 行政の改革として、他自治体の取り組みは調査されているのか。改善の事例などすぐ役に立つと思う。新聞などでもいろいろな記事が出ている。職員研修などでそのような改革の成功事例を活用されるといいのではないかと。

(事務局) 他の事例も把握はしているが、新たに調査します。

(会長) 男性の育休については、単に説明会をするのではなく、一つの課題として取り上げていいのではないかと。また、本人の問題だけでなく、他にも、職場の問題やパートナーの問題、育児の問題などいいテーマがもっとあるのかもしれない。職員の確保については、今までどおりの取り組みを行うとしか見えない。実際、大綱

の中では、志願者が少ないことや合格者が他の自治体に入るため辞退する人が多いなど分析がされている。だからそこ、この部分を課題としてどのようなことに挑戦していくのかを明確にしたほうが良いと思う。

(事務局) 細かく分析し、整理していきたい。

(委員) ふるさと納税はまだ伸びしろがあると思う。魅力があるものを作れば、その可能性は広がると思うが、どうやって魅力あるものをつくっていくのかが難しいと思う。今考えられている方策などがあれば教えてもらいたい。

(事務局) 現在、所管課と委託業者が一緒になり、本市独自のほかにないものができるか検討を行っている。また、今後、コロナ禍における行動制限がなくなった中で、ふるさと納税を通じて本市を訪れていただけるような宿泊・体験型の返礼品作成も進めている。プレミアム感のある返礼品を定期便として高額寄附をいただけるようなことも進めている。

(委員) ふるさと納税の返礼品として、市内のいろいろな企業が取り組みたいと思っているが、どのように取り組めばいいのかわからない部分もある。行政では、そのような企業とのキャッチボールをやっていただくためにも、やる気のある企業が手をあげられるような仕組みを構築されるといいのかもしれない。また、返礼品として作っていくこと中でいろいろな課題をもっていらっしゃる企業も多くある。体験型については、ぜひ、宿やハンドメイド体験などができる企業とのマッチングなど道標、プロセスとして進めていただければと思う。HOW（どうやって）という部分を見せていただけると心強いので。

(会長) この観点はぜひ取り入れてもらいたい。財政的な効果を上げるためには、税収だけでなく、地域の産業としての魅力や地域の人々の支援が大切であって意味合いが非常に深いところ。ただ、市の職員だけでは当然無理で、いろいろな専門的な組織や支援組織、協議会を立ち上げることも重要ではないかと思う。また、納税された方がサイトを通さずに市へ納税してもらおうということなどもできると思う。ぜひ検討して取り組んでほしい。あと、企業版ふるさと納税では、大都市の企業ではなく、近いところの企業などターゲットを絞るということも考える必要があるかもしれない。大企業ほど他の自治体との競争があると思うので。また、行革の見せ方として、全般的な財政の効果としての積み上げが出てくると行革の促進について評価がしやすくなる。収納率については、非常に高くほぼ変わらないというのはどういう状況だが、あと 0.5%という部分の分析し、そこから課題が見出されて、その課題の解決に向けて目指しますという形が良いと思う。納付チャンネルは、市民サービスの向上や事務コストの削減などにつながるなどそちらの視点の方が説明できるので。

(事務局) 収納率は県下でもトップの状況でもあり、安心していただいていた部分でもある。ご意見をいただいたとおり、納税チャンネルについては、収納率の維持・向上だけでなく、市民サービスの向上などという視点も踏まえ検討していきたい。

(会長) 全体的に見直し、検討をされ次回提示をお願いしたい。

以上